

令和6年度 第55階千葉県中学校新人バスケットボール大会戦評

〔女子準決勝A〕

昭和学院

(市川・浦安)

80

$$\left. \begin{array}{l} 16-10 \\ 21-16 \\ 20-20 \\ 23-8 \end{array} \right\} 54$$

大網

(山武)

【評】

準決勝、昭和学院対大網。1Q、両チームともにオールコートマンツーマンでスタート。立ち上がり、両チームともに鋭いドライブから得点を狙いに行く。大網のドライブからのシュートに対して、昭和学院は球際までプレッシャーをかけ、簡単に得点を入れさせない。タフなディフェンスから素早いオフェンスを続けた昭和学院が6点差をつけ、1Qを終える。2Q立ち上がり、昭和学院がドライブから得点を重ね、10点差をつけ、大網がタイムアウト。その後、大網は、ディフェンスリバウンドから速いオフェンスを仕掛け、#1山内が得点を挙げ、追い上げる。一時、昭和学院が16点差まで広げるも、大網#30矢部がドライブから得点を重ね、#75日野が3Pをブザービーターで沈め、37-26で前半を終える。

後半立ち上がり、大網#1山内の3P、#75日野のドライブからの得点などで差を詰める。リバウンドから大網がリズムを掴み、得点を重ねる。残り2分、大網は4点差まで詰めるが、昭和学院#7木内が連続で得点し、11点差で3Qを終える。4Q、大網#81三島のドライブなどで得点するが、昭和学院は素早いオフェンスから#5吉田のレイアップなどで続けて得点し、15点差をつける。残り4分、昭和学院#7木内の3Pやファーストブレイクで点差を広げた。大網は最後まで懸命にディフェンスを仕掛けるが、昭和学院は冷静に試合運び、最終スコア80-54で試合を終えた。

〔女子準決勝B〕

船橋市立七林中学校

(船橋)

64

$$\left. \begin{array}{l} 20-9 \\ 15-15 \\ 16-12 \\ 13-12 \end{array} \right\} 48$$

千葉市立真砂中学校

(千葉)

【評】

両チームともにオールコートマンツーマンでスタート。序盤、互いに気持ちの入った堅いディフェンスで簡単に得点を許さず、相手にペースを掴ませず、準決勝にふさわしいゲームが展開される。1Q後半、七林は#11武田のディフェンスリバウンドからの速攻で連続得点を挙げ、流れを掴む。真砂がディフェンスの戻りを速くして対応するも、七林はインサイドの#11武田がオフェンスの起点となって、#12雨池が3Pを決めるなど、アウトサイドとインサイドを絡めたオフェンスで得点を重ね、20-9で七林が11点リードして1Qが終了。2Q、真砂は#23金谷と#17梅本が3Pを決めるなど得点を重ねるが、七林は#11武田が3連続得点をあげるなど互いに譲らず、35-24で前半が終了。

後半、真砂はスクリーンプレーからの得点や#47佐々木の3Pなどで得点をあげる。対する七林がリバウンドからの速攻など脚を使ったバスケットとインサイドを絡めた高さを生かしたバスケットを使い分け、相手のディフェンスを翻弄し、徐々にリードを広げ、64-48で七林が勝利した。敗れはしたものの、最後まで粘り強く戦った真砂の健闘を称えたい試合であった。

〔男子準決勝A〕

| | | | | |
|--------------------|----|---|----|--------------------|
| 市原市立辰巳台中学校 (市原) | 73 | } | 60 | 千葉市立加曽利中学校 (千葉) |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

【評】

決勝進出をかけた戦い。立ち上がり辰巳台は#5猿橋のアウトサイドシュート、レイアップ、#4田口のリバウンドシュート、レイアップが決まり21-8とリードする。加曽利中はドライブインから果敢に攻めるがゴールに結びつかない。1Qが終了し、26-11で辰巳台がリードする。2Q、互いに攻防の切り替えが早く、点の取り合いになる。加曽利は#4秋田のアウトサイドシュート、#72大高のドライブイン、#10柴山のリバウンドシュートで追い上げを見せるが、辰巳台も#7小池がアウトサイドシュート、#4田口がペイントエリアのシュートを確実に決め得点に結びつける。39-27で辰巳台のリードで前半が終了した。

3Q、加曽利#4秋田のジャンプシュート、レイアップ、#72大高のリバウンドシュートで追い上げを見せ、一時7点差までいくが、辰巳台#4田口がレイアップ、ペイントエリアでシュートを決め突き放す展開になる。3Qが終わって、55-43で、辰巳台がリードを守る。4Qは加曽利#8石村がリバウンドシュートを連続で決め、勢いを見せるが辰巳台は#5猿橋、#4田口の速攻を絡めテンポの良い試合運びで逃げ切り決勝戦に駒を進めた。最後まで粘り強く戦った加曽利の健闘も称えたい試合であった。

〔男子準決勝B〕

| | | | | |
|---------------------|----|---|----|----------------------|
| 松戸市立松戸第四中学校 (松戸) | 86 | } | 67 | 市原市立ちはら台南中学校 (市原) |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

【評】

男子準決勝、松戸四はハーフコートマンツーマンディフェンス、ちはら台南はオールコートマンツーマンでスタートした。1Q、両チームとも立ち上がりから積極的なオフェンスを展開した。ちはら台南は#4高橋の積極的なドライブや3Pシュートから得点を重ねた。松戸四は#6武田のアウトサイドシュートが決まり、#7藤田がドライブからの合わせのシュートを積み重ね、1Qは27-17とリードする。2Q、ちはら台南は#4高橋と#9江連が3Pシュートを決め、リードを詰めたが、松戸四は#7藤田がリバウンドを奪取し、チャンスを増やした。松戸四がテンポのよいオフェンスを展開し、50-34で2Qを終了した。

3Q、ちはら台南はリードを詰めようとオフェンスのリズムを上げ、素早いドライブやアウトサイドシュートを狙う。しかし、松戸四も激しいディフェンスで対応し、追い上げさせない。松戸四は#7藤田のリバウンドシュート、#8岩崎のシュートを起点に67-45とリードを広げた。4Q、ちはら台南はオールコートマンツーマンプレスを積極的に仕掛け、点差を詰めることができたが、あせらず冷静に試合を運ぶ松戸四が逃げ切り、86-67と決勝戦に駒を進めた。松戸四のオフェンスが光ったが、最後までチーム全員で粘り強く戦ったちはら台南の健闘も称えたい試合であった。

〔女子決勝〕

昭和学院

(市川・浦安)

56

20-7
18-9

5-20
13-9

45

七林

(船橋)

【評】

決勝戦、共にシードから勝ち上がった昭和学院対七林。両チームともハーフコートマンツーマンで静かな立ち上がりとなり、試合が始まった。立ち上がりは体格で有利な昭和学院が#4薬師寺、#5吉田のドライブで先行して点数を決めていく。開始4分、10-0でリードを広げる。対して七林は#9戸田の3Pや#10鷲尾のドライブで流れを変えようと積極的にオフェンスを展開していくも、20-7で1Qを終える。2Qに入っても、昭和学院の勢いは止まらず、#5吉田のシュートを皮切りに点数を重ねていき、38-16で前半を終える。

後半に入り、流れは大きく七林に傾く。前半に比べ、七林のディフェンスが激しくなると同時に#12雨池を中心とした速い展開で得点を重ねる。3Q後半は#11武田のインサイドプレーで一気に点差を縮め、43-36で3Qを終える。4Qは一進一退の展開が続く。七林は#11武田のインサイドプレーで得点を重ね、残り5分で45-41と4点差まで迫るが、昭和学院も激しいディフェンスで少しずつ試合のペースを握る。昭和学院は終盤、#7木内のドライブで着実に得点し、最後まで粘る七林を振り切り、56-45で勝利し、3年連続25回目の優勝を決めた。決勝戦にふさわしい熱戦を繰り広げた両校に会場から大きな拍手が送られていた。

〔男子決勝〕

市原市立辰巳台中学校

(市原)

54

10-19
16-11

10-10
18-22

62

松戸市立第四中学校

(松戸)

【評】

決勝戦、両チームハーフコートマンツーマンでスタート。辰巳台は激しいディフェンスからボールを奪い、力強いドライブで攻める。対する松戸四は高さを生かしたリバウンドから速攻で得点を重ねる。松戸四の速攻からのバスケットカウントが連続で決まり、主導権を握る。辰巳台は果敢にドライブを仕掛けるが、高さのあるディフェンスになかなか得点できず、10-19で1Q終了。2Q、辰巳台は#4田口の1対1からのジャンプシュートや巧みなパスワークで連続得点し、流れをつかみかけるが、松戸四は慌てずに高さのあるポストプレーや#4大塚や#6武田の鋭いドライブで対抗し主導権を譲らない。お互いに一進一退の攻防が続き26-30で2Qを終える。

3Q、松戸四が粘り強いオフェンスリバウンドから得点を重ね、突き放しにかかるが、辰巳台は#4田口の1対1や#5猿橋の3Pシュートで必死にくらいつく。どちらも激しいディフェンス、粘り強いリバウンドでなかなか得点できず36-40で3Q終了。4Q、辰巳台が果敢にペイントアタックして得点し、さらに#5猿橋の3Pが再び決まり、1点差に迫る。しかし、松戸四はスクリーンをうまく使いノーマークを作り出し、バスケットカウントとなる。お互いにディフェンスのプレッシャーを強め、点の取り合いとなるが、松戸四#6武田のドライブ、ゴール下のシュートが連続で決まり、47-54となったところで辰巳台がタイムアウトをとる。辰巳台はプレスディフェンスをしかけるが、松戸四は落ち着いてボールを運び、フリースローを確実に決めて、54-62で試合終了となり、松戸四が初優勝を収めた。決勝戦にふさわしい素晴らしい攻防の応酬のある試合であった。最後まで粘り強く戦った辰巳台の健闘も称えたい。